

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年6月19日

予報期間：6月21日～7月20日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北・東・西日本では、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
沖縄・奄美では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報

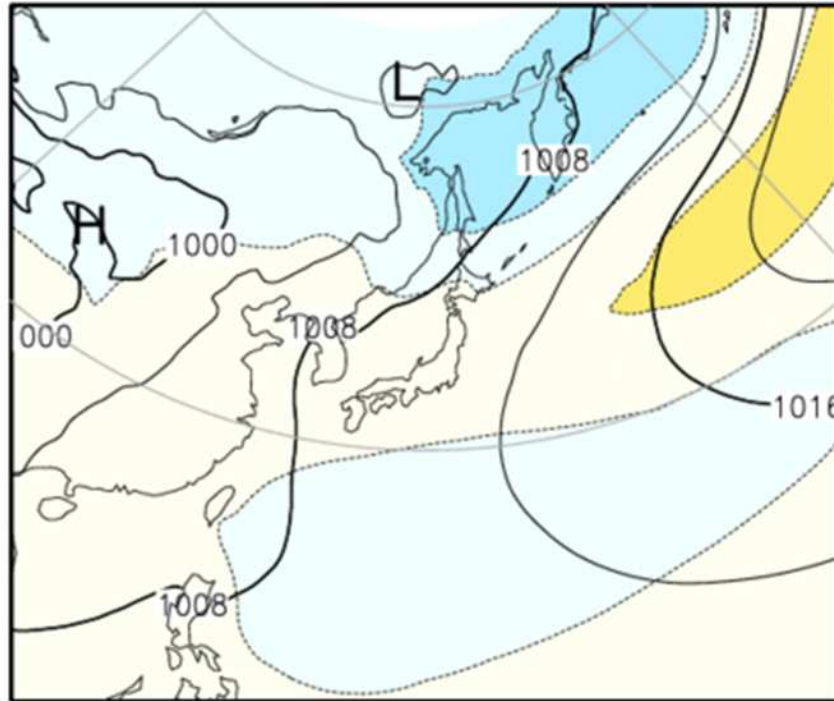
1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:40:30 40:30:30	20:40:40 20:40:40	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	40:40:20 50:30:20	20:30:50 20:30:50	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	50:30:20 50:30:20	20:30:50 20:30:50	
沖縄・奄美		10:30:60	30:40:30	20:40:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
東日本	10:10:80	10:20:70	10:30:60
西日本	10:10:80	10:20:70	10:40:50
沖縄・奄美	10:20:70	20:30:50	30:40:30

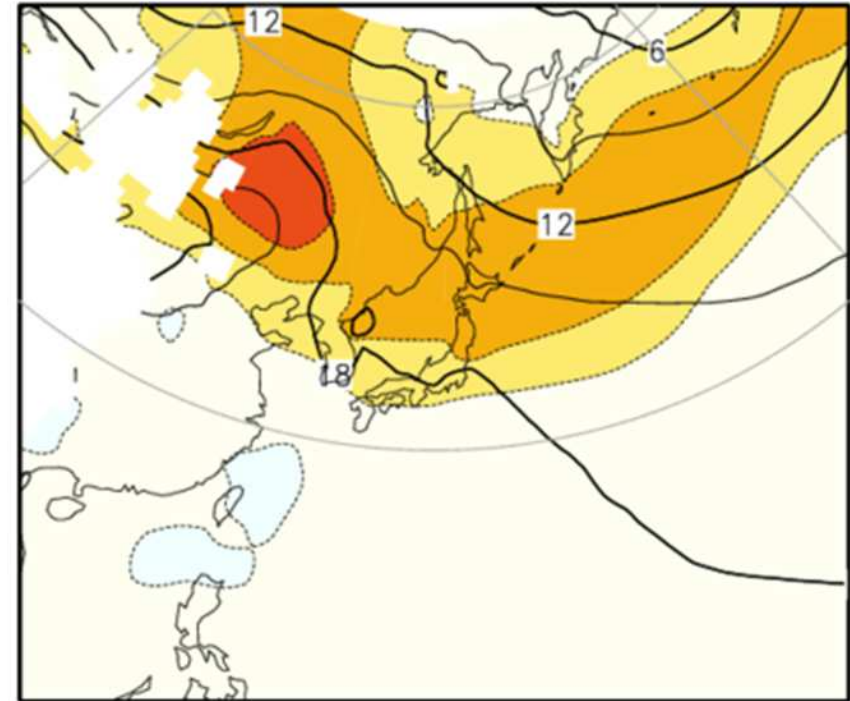
全般予報のポイント

- ・向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高く、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・太平洋高気圧に覆われやすいため、向こう1か月の降水量は東日本太平洋側と西日本では少なく、東日本日本海側では平年並か少ないでしょう。向こう1か月の日照時間は北日本では平年並か多く、東・西日本では多いでしょう。
- ・沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすい時期があるため、向こう1か月の日照時間は平年並か多いでしょう。

海面気圧(1か月)



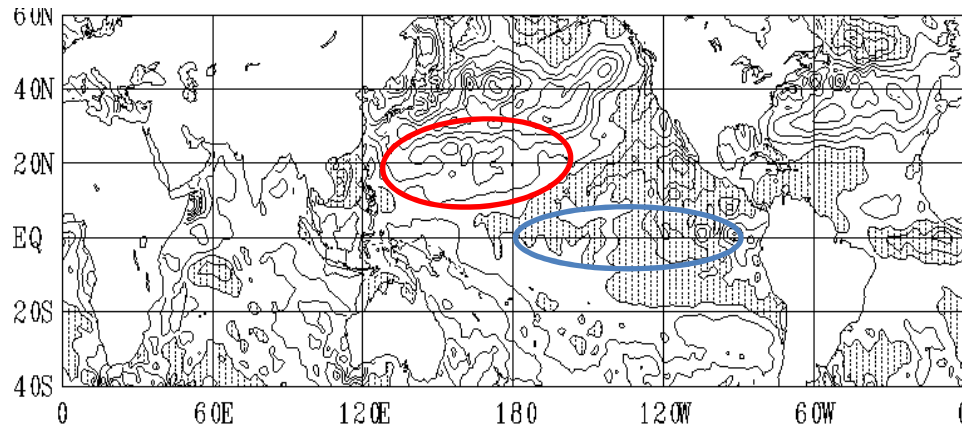
上空約1500mの気温(1か月)



1か月平均の海面気圧(左図)は、日本付近から東海上にかけて、太平洋高気圧が強く予測されています。東・西日本、沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われやすいでしょう。一方、オホーツク海付近の気圧は平年より低く予測され、北日本日本海側中心に太平洋高気圧の縁を回る湿った空気が流れ込みやすく、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。

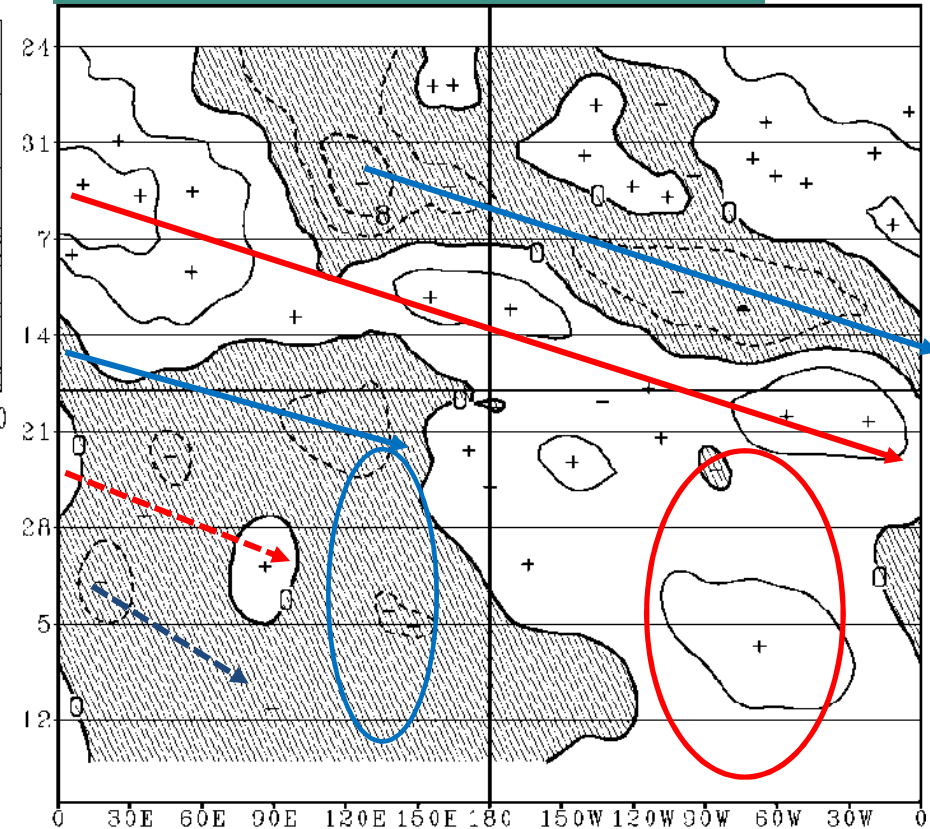
上空約1500mの気温(右図)は、北日本を中心に、ほぼ全国的に平年より高いと予測されています。

SST偏差



熱帯域では、太平洋中部から東部で負偏差、北西太平洋で正偏差。

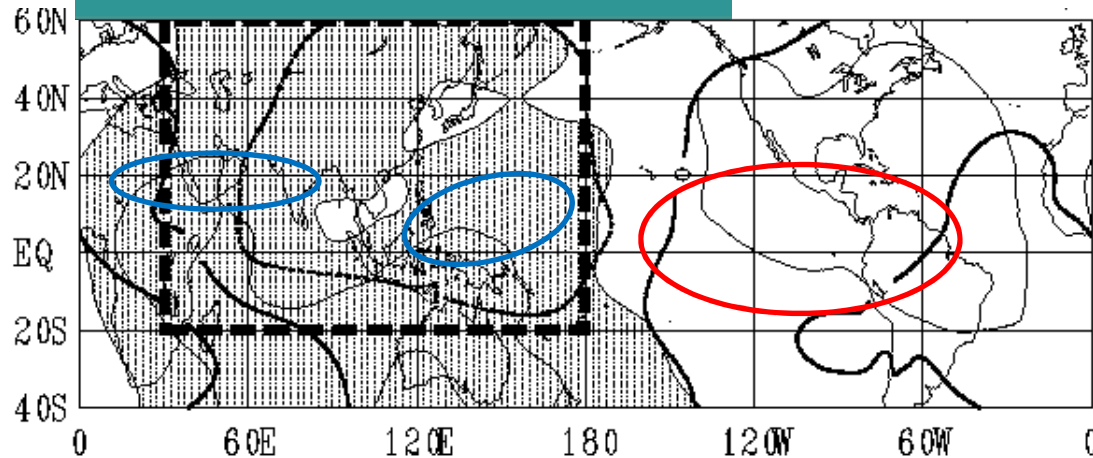
200hPa速度ポテンシャル偏差



実況から1週目にかけて、発散偏差域(対流活発域)がアフリカからインドネシア付近に東進し、その後、インドネシア付近で発散偏差(対流活発)が持続。一方、収束偏差域(対流不活発域)が太平洋中部から東部で持続。

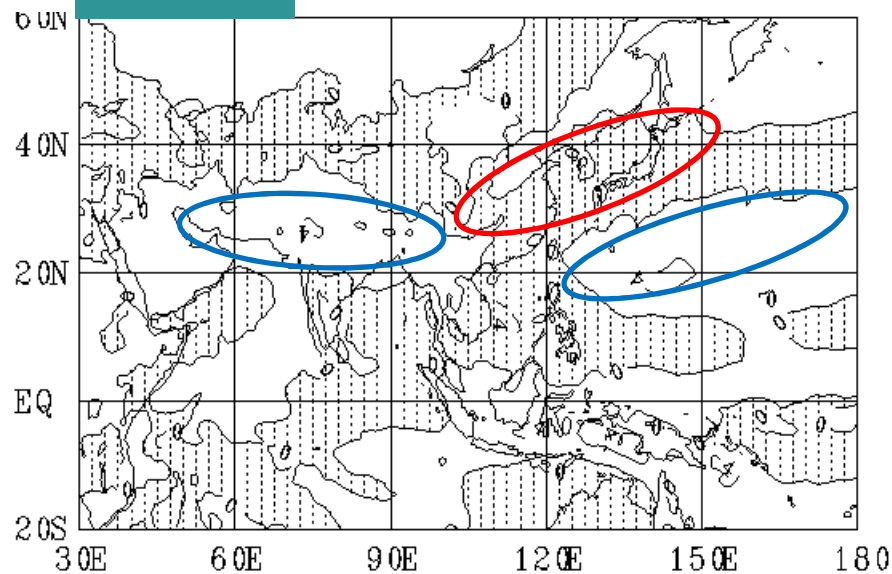
予報資料の解釈 1か月(6/21~7/18)

200hPa速度ポテンシャル



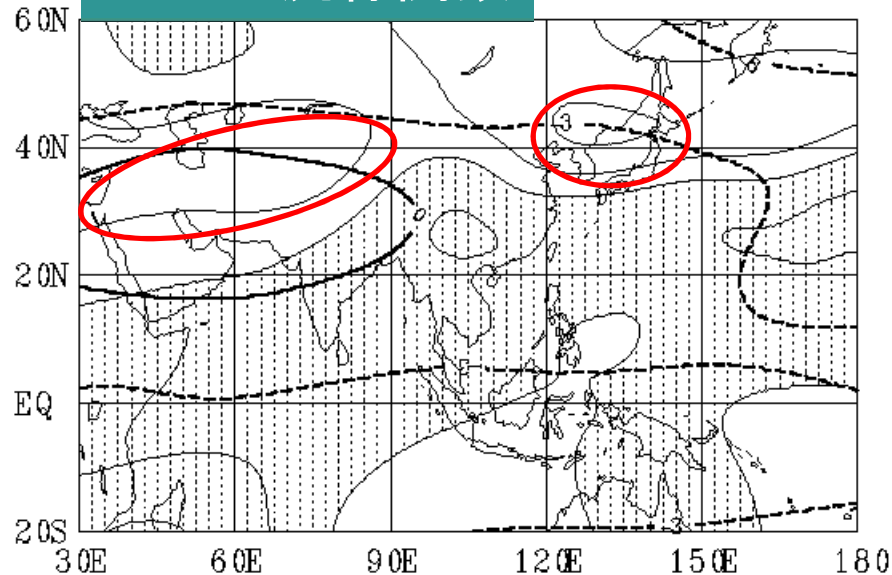
熱帯域では、太平洋中部から中米付近で上層収束偏差の一方、アラビア海付近とフィリピンの東で上層発散偏差。

降水量



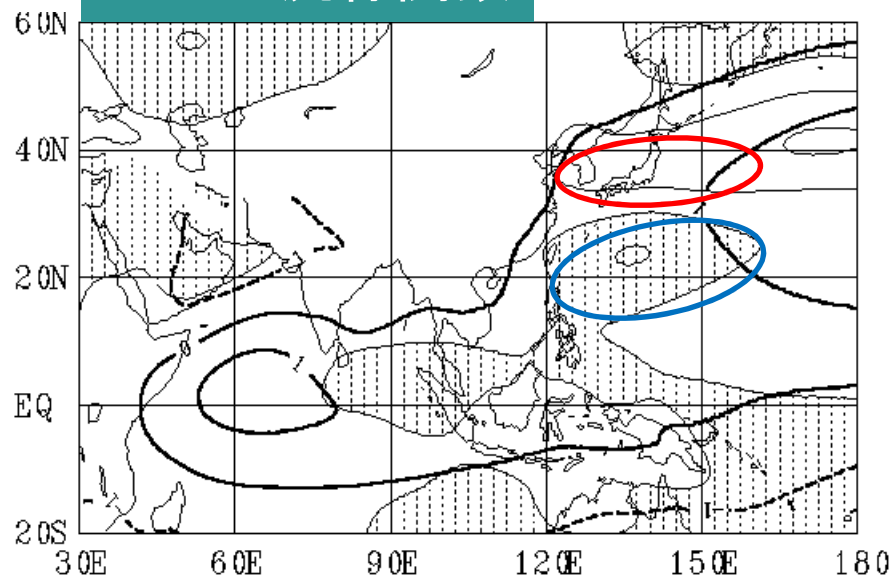
インドの北、フィリピンの東の北緯20度帯で多雨偏差、華南から日本付近にかけて少雨偏差。

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播や熱帯の対流活動の影響で、日本付近は高気圧性循環偏差。アジアモンスーン域の北側で対流活動が活発な影響もあり、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本の東海上で北偏。

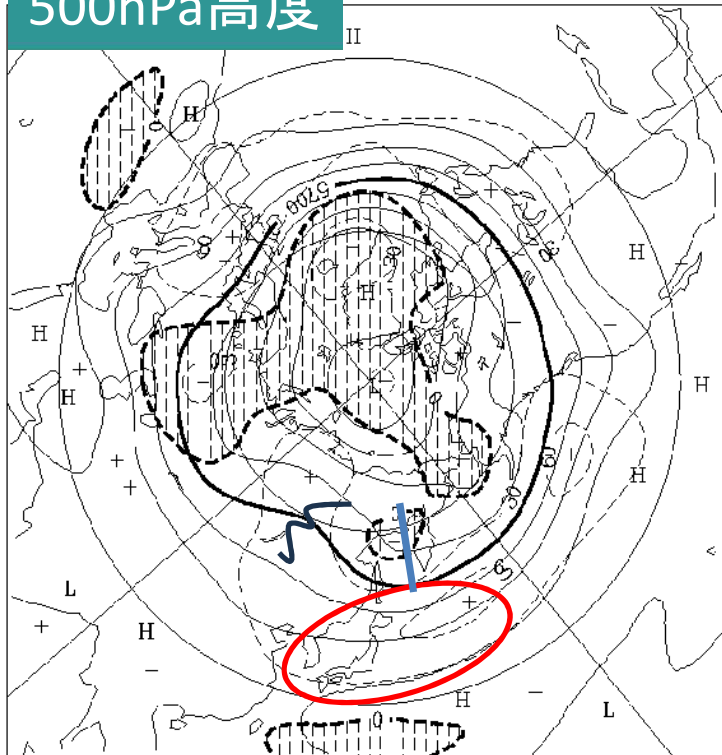
850hPa流線関数



熱帯の対流活動に対応して、フィリピンの東海上で低気圧性循環偏差。また、日本付近で高気圧性循環偏差。これらの偏差パターンには、フィリピンの東海上の対流活動が関係しているとみられる。

予報資料の解釈 1か月(6/21~7/18)

500hPa高度

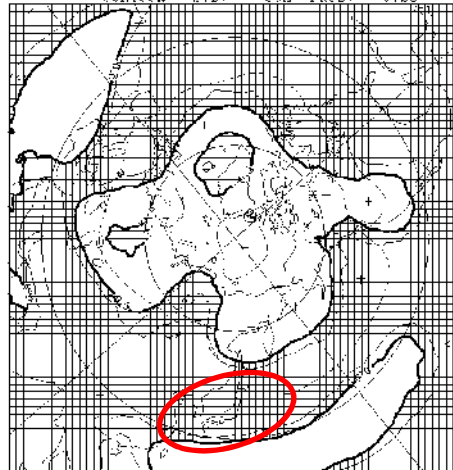
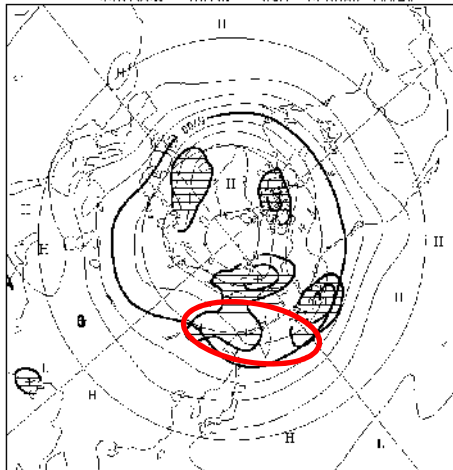


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 40m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 20m PROB: 0.25

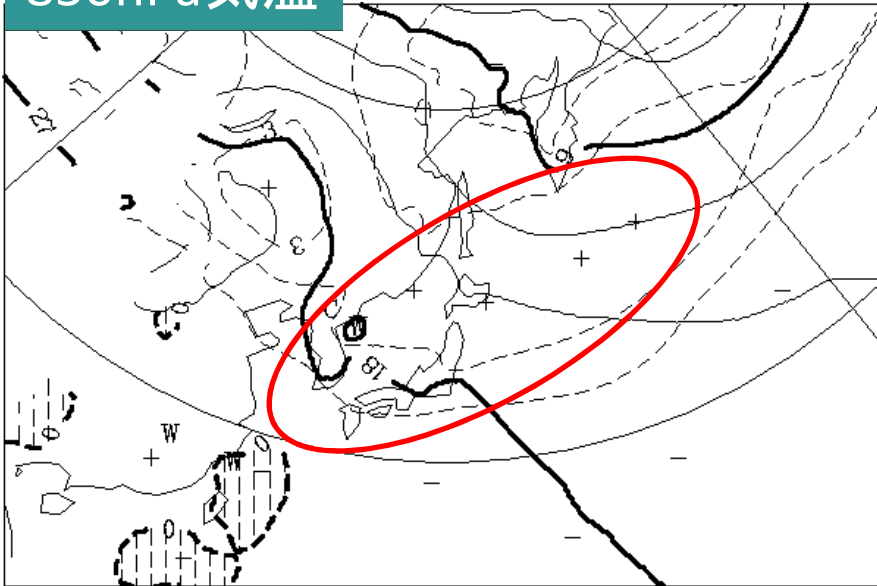


日本付近を含む、太平洋中緯度帯で明瞭な正偏差。バイカル湖の東にリッジ、オホーツク海付近にトラフがある。

日本を含む広い範囲で正の高偏差確率75%以上の領域に覆われる。日本の北にスプレッドが大きい領域が見られ、上述したバイカル湖の東のリッジ、オホーツク海付近のトラフの位相などの予測の不確実性を示唆する。

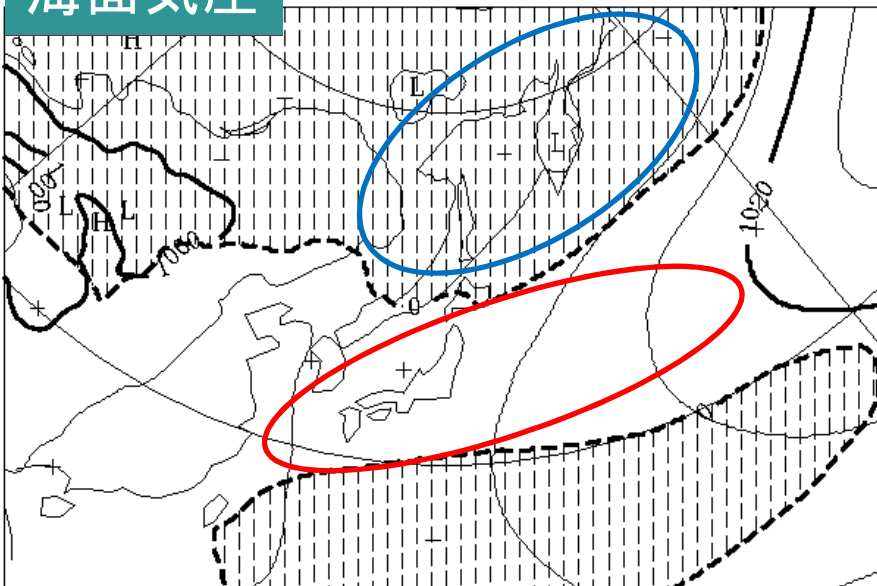
予報資料の解釈 1か月(6/21~7/18)

850hPa気温



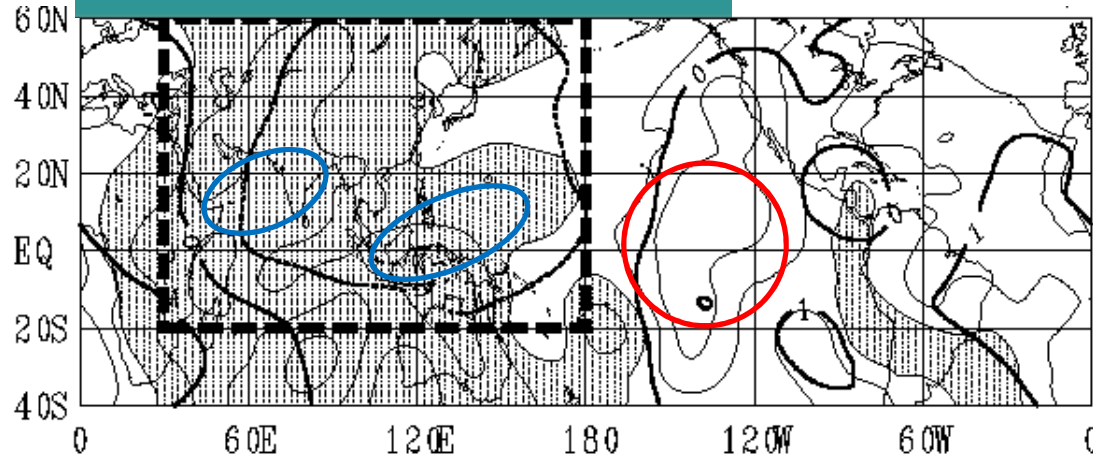
日本付近は北日本を中心にほぼ全国的に正偏差域に覆われる。

海面気圧



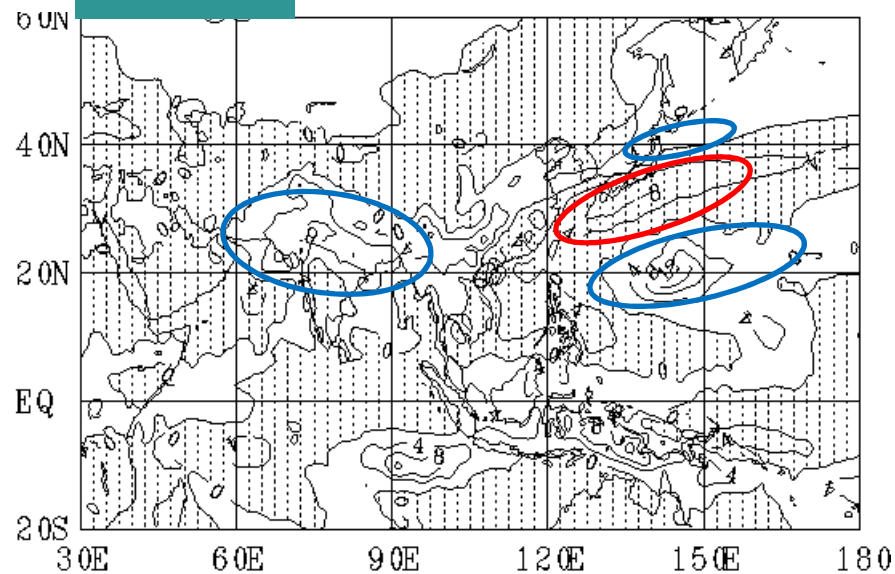
日本付近から日本の東にかけて太平洋高気圧が強く、東・西日本、沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすい。一方、中国東北区からオホーツク海にかけて負偏差。期間の前半中心に、太平洋高気圧の縁を回って北日本日本海側中心に湿った空気が流れ込み、前線や低気圧の影響を受けやすい時期がある。

200hPa速度ポテンシャル



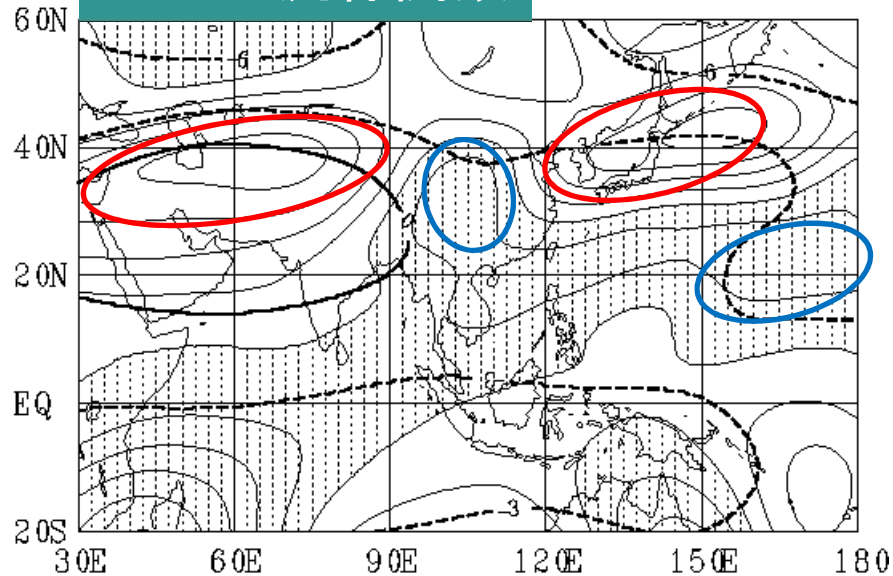
熱帯域では、太平洋中部から東部で上層収束偏差、アラビア海付近、インドネシアからフィリピンの東にかけて上層発散偏差。

降水量



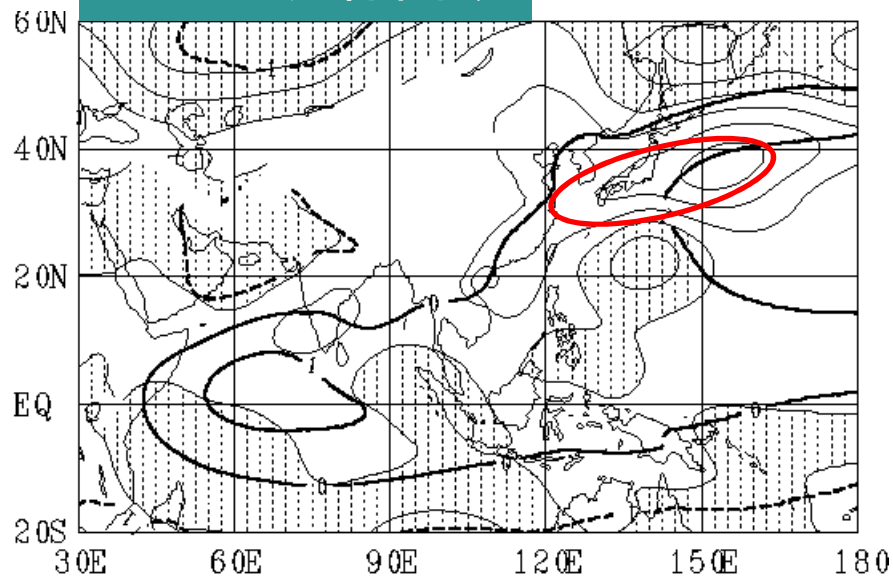
フィリピンの北東海上から日本のはるか南東海上、インド付近で多雨偏差。華南から東・西日本太平洋側で少雨偏差。北日本では多雨偏差。

200hPa流線関数



亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播がみられ、その一環として日本付近は高気圧性循環偏差。日本のはるか南東海上で低気圧性循環偏差。

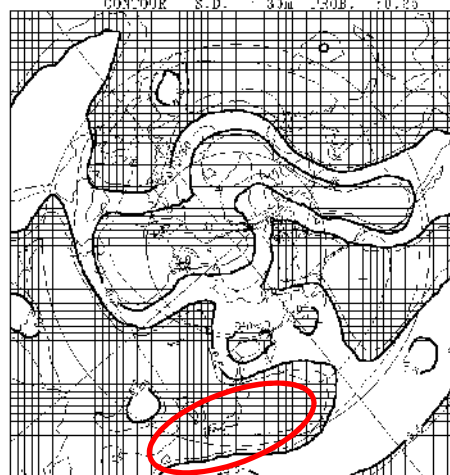
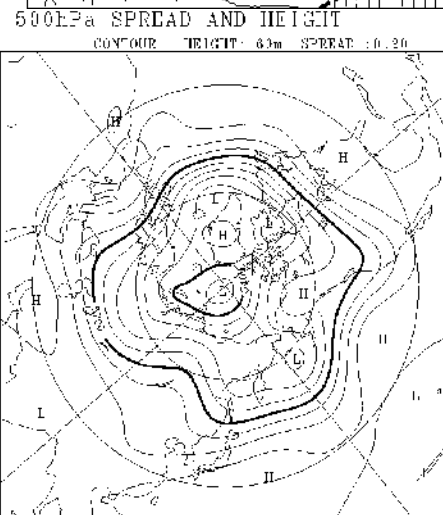
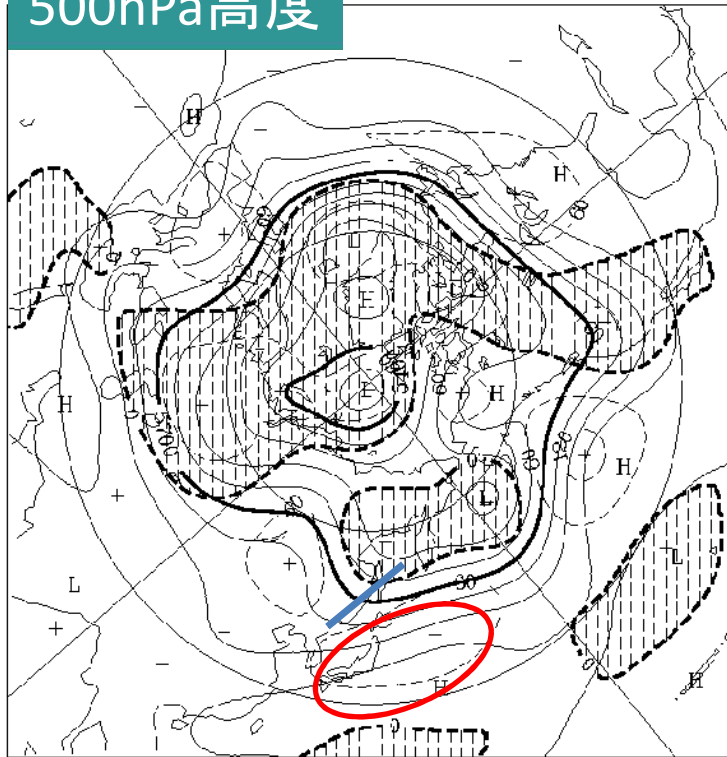
850hPa流線関数



日本付近は高気圧性循環偏差で、上層の高気圧性循環偏差と対応した順圧的な高気圧。

予報資料の解釈 1週目(6/21~6/27)

500hPa高度

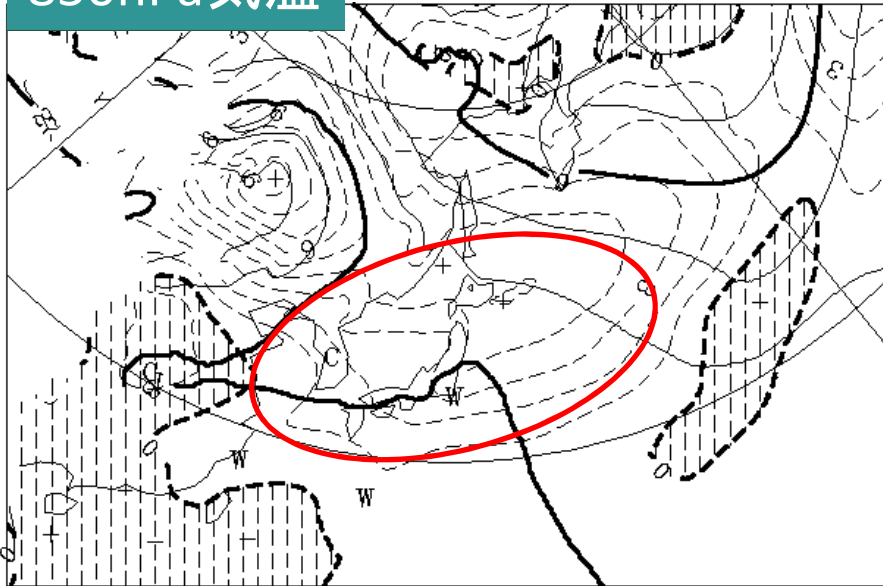


日本付近は正偏差で偏差の中心は日本の東。沿海州付近にトラフがあって、北日本中心にその影響を受ける。

日本付近は広く正の高偏差確率75%以上の領域に覆われている。

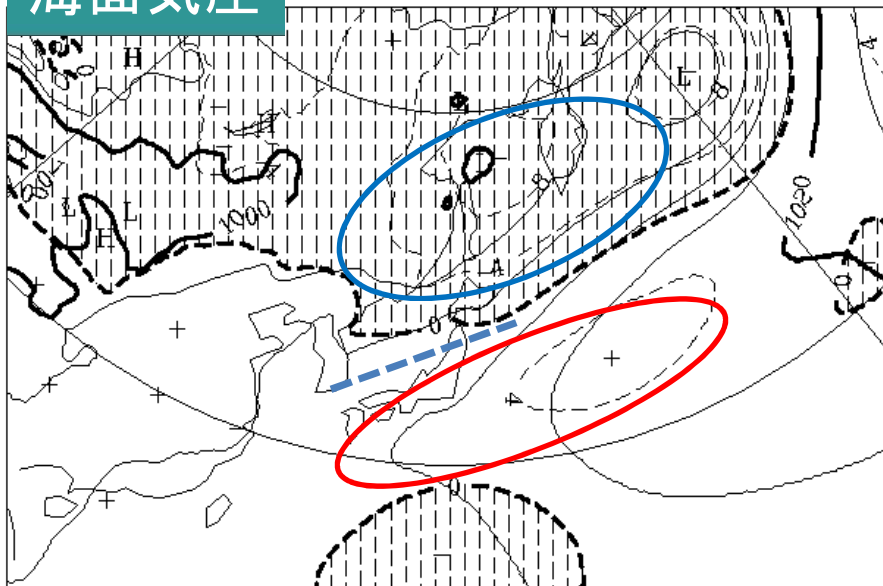
予報資料の解釈 1週目(6/21~6/27)

850hPa気温



日本付近は顕著な正偏差域に覆われている。

海面気圧



日本の南で太平洋高気圧が強い。一方、オホーツク海を中心に負偏差。梅雨前線帯は日本海で、北日本日本海側を中心に、梅雨前線帯に暖かく湿った空気が流れ込みやすい。

想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。

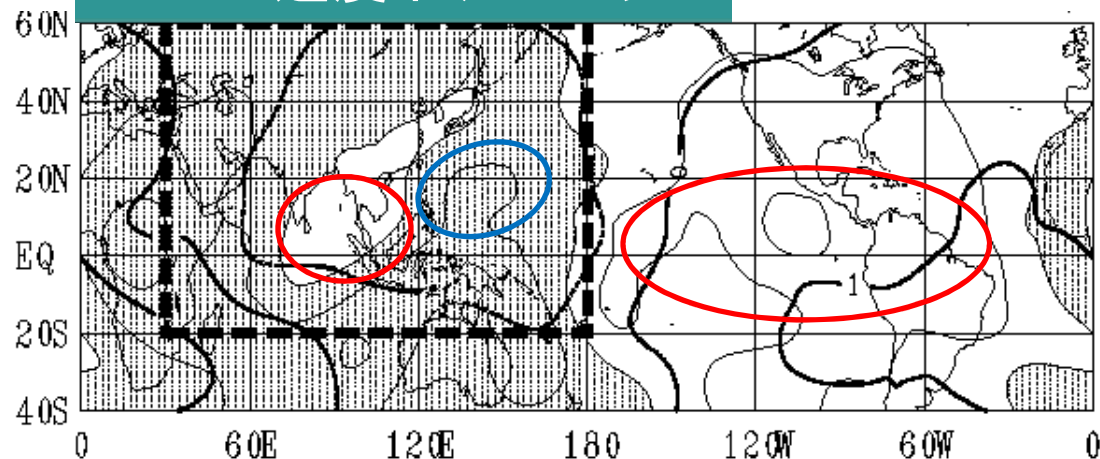
<気温>

全国的に暖かい空気に覆われやすいため高温で、北・東・西日本ではかなりの高温。

<天候>

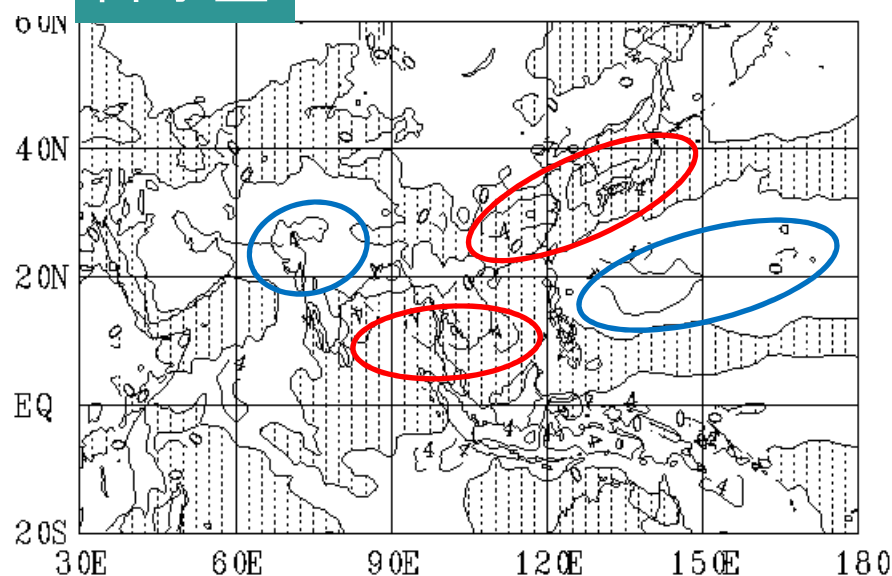
- ・ 北日本日本海側では、梅雨前線帯に暖かく湿った空気が流れ込みやすく、多雨傾向。
- ・ 北日本太平洋側と東・西日本日本海側では、平年と同様。
- ・ 東・西日本太平洋側では、梅雨前線の影響が弱く、少雨傾向。
- ・ 沖縄・奄美は太平洋高気圧に覆われやすいため、少雨で多照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



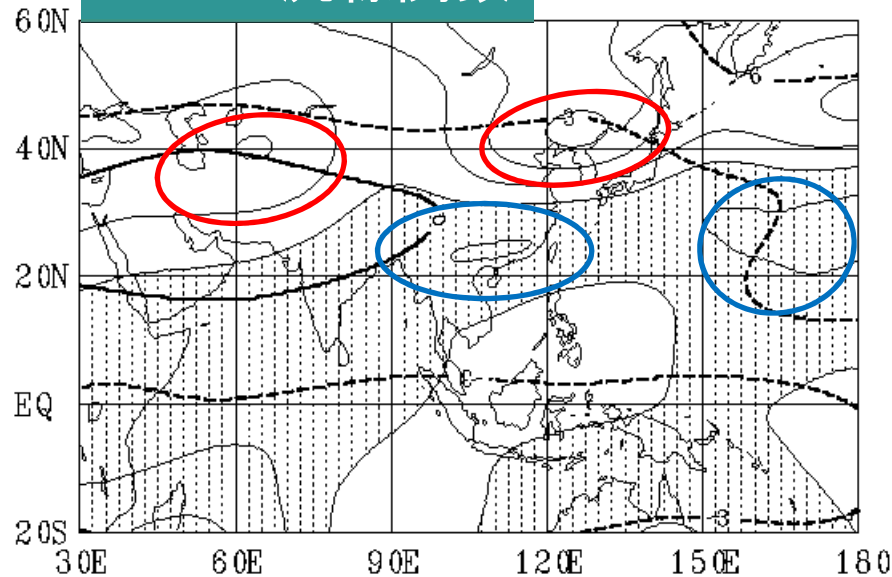
フィリピンの東方海上で上層
発散偏差、ベンガル湾付近、
太平洋中部から中米にかけ
て上層収束偏差。

降水量



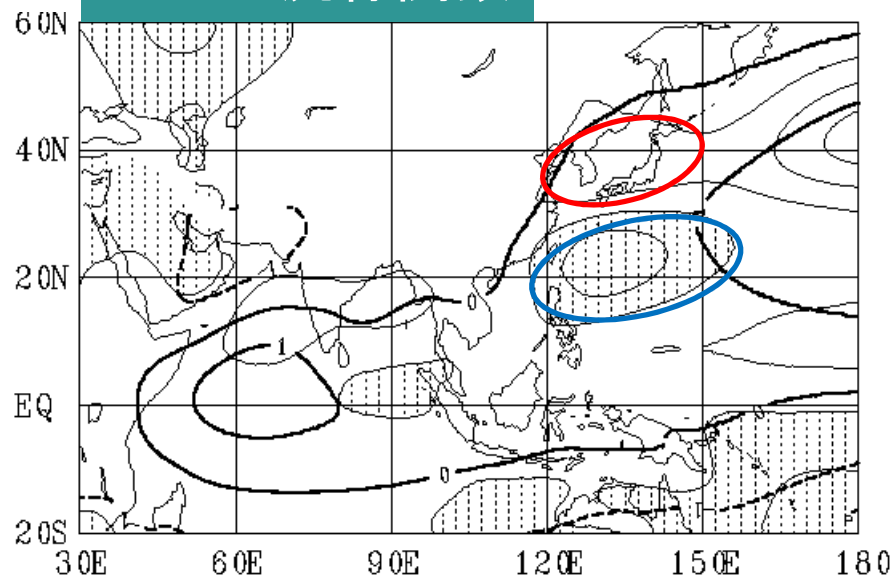
パキスタン付近、フィリピンの東
海上で多雨偏差、ベンガル湾
から南シナ海付近、華中から
日本付近にかけて少雨偏差。

200hPa流線関数



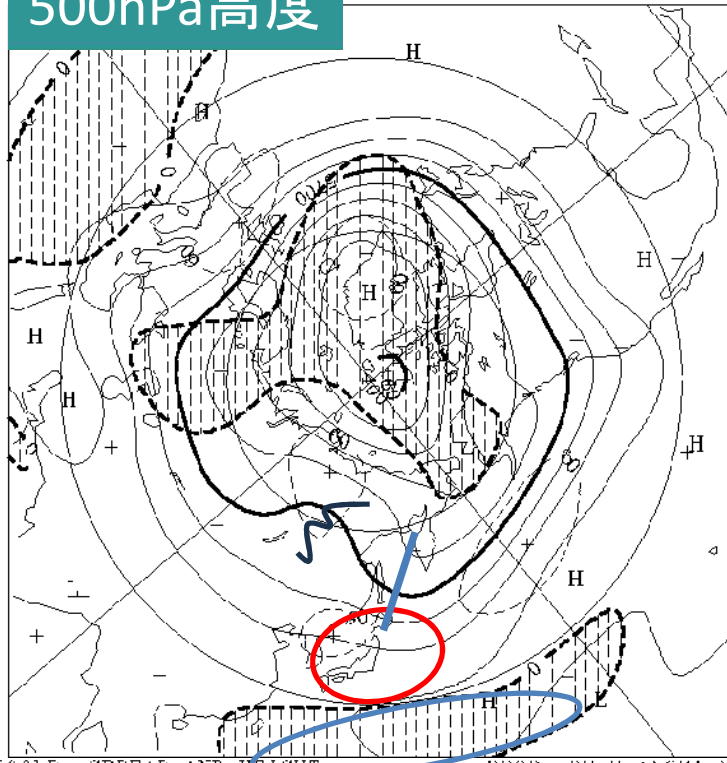
熱帯の対流活動に対応して、中央アジアで高気圧性循環偏差、中国南東部で低気圧性循環偏差、中国東北区中心に高気圧性循環偏差。また、日本のはるか南東海上で低気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



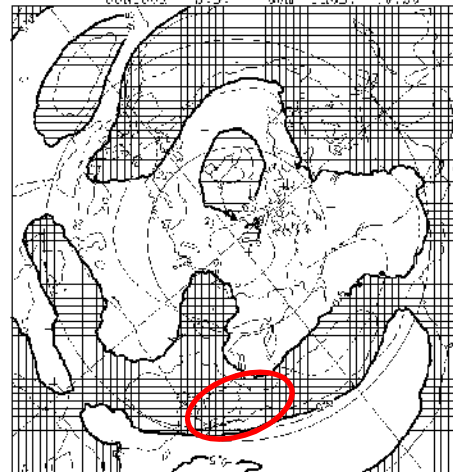
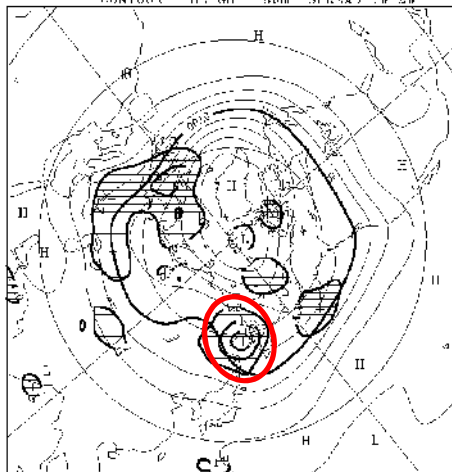
熱帯の対流活動に対応して、フィリピン付近から日本の南にかけて低気圧性循環偏差。本州付近は高気圧性循環偏差で順圧的な高気圧。この高気圧の形成には、フィリピンの東海上の対流活動の影響もあるとみられる。

500hPa高度



500hPa SPREAD AND HEIGHT

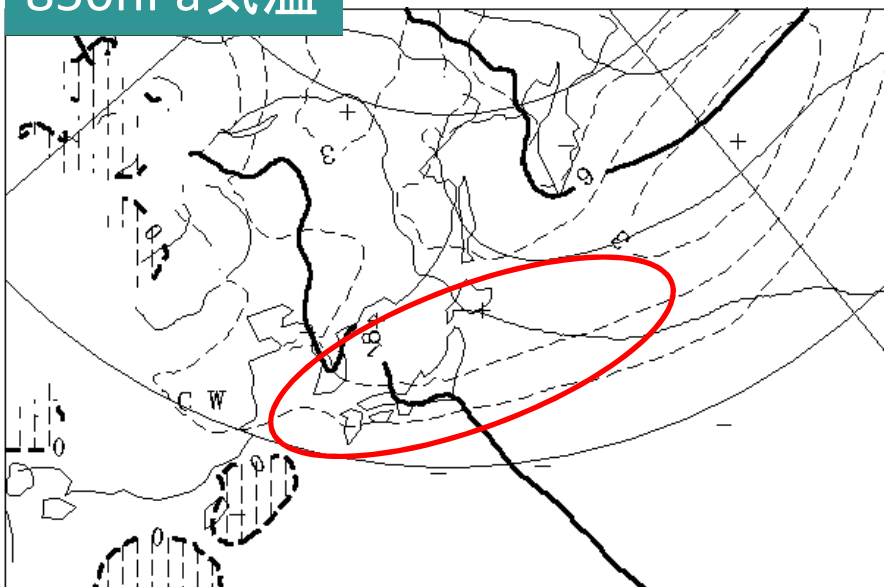
PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.



日本付近は、正偏差で偏西風は西北西の流れ。また、バイカル湖の東にリッジ、オホーツク海付近にトラフがあり、北日本ではトラフの影響を受ける可能性もある。また、日本の南は負偏差。

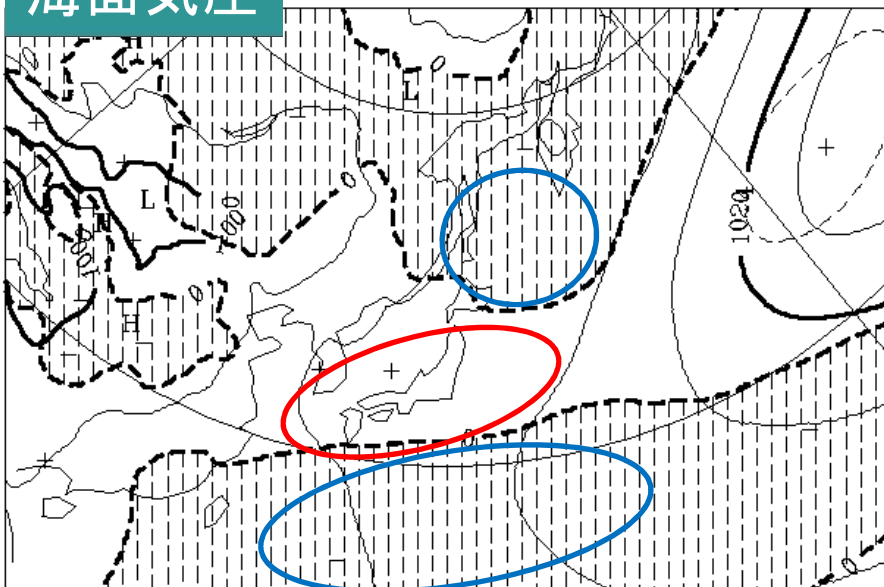
北・東・西日本は正の高偏差
確率75%以上の領域に覆われる。日本の北にスプレッドが大きい領域が見られ、上述したバイカル湖の東のリッジ、オホーツク海付近のトラフの位相などの予測の不確実性を示唆する。

850hPa気温



日本付近は正偏差域に覆われる。

海面気圧



日本付近で太平洋高気圧が強い。梅雨前線帯に対応する等圧線のくびれは不明瞭。上層のトラフに対応して北海道付近には負偏差域がかかる。また日本の南は負偏差で、沖縄・奄美では湿った空気や熱帯擾乱の影響を受ける可能性がややある。

想定される天候

- ・ 北日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

<気温>

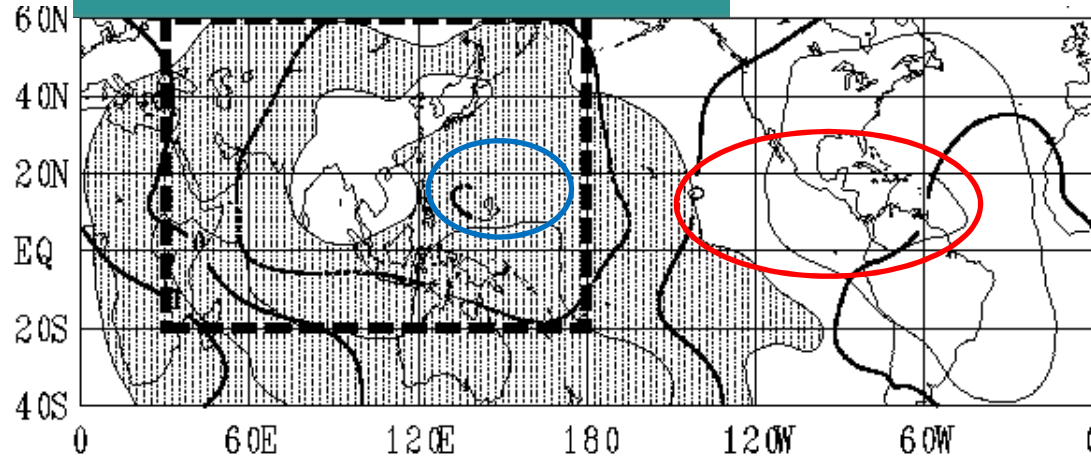
全国的に暖かい空気に覆われやすいため高温で、沖縄地方を除きかなりの高温。

<天候>

北日本と沖縄・奄美では、平年と同様。

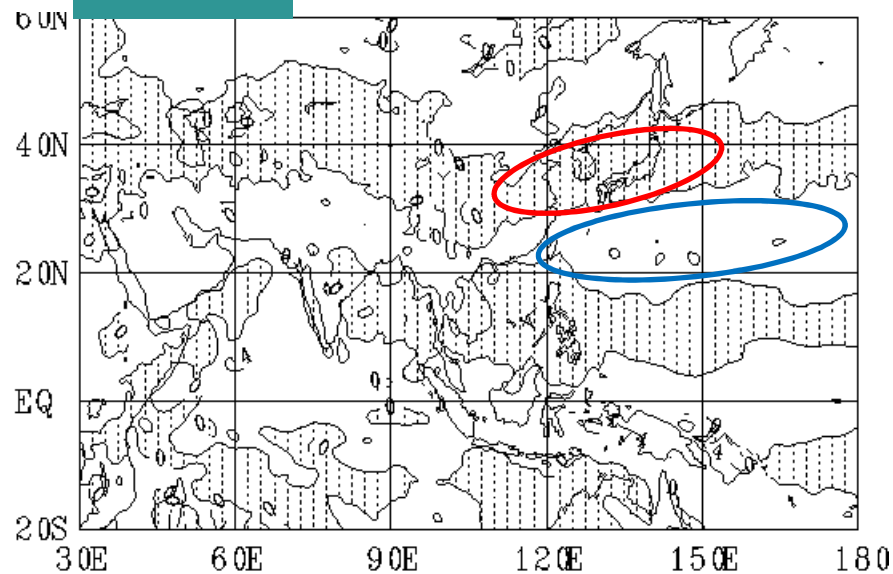
東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、少雨多照。

200hPa速度ポテンシャル



フィリピンの東海上で上層発散偏差、太平洋東部から中米で上層収束偏差。

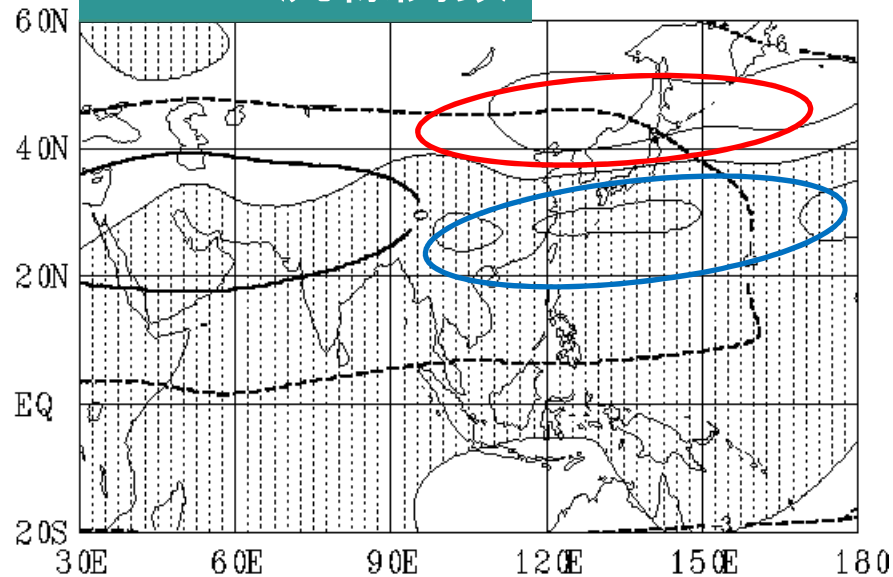
降水量



台湾付近から日本のはるか南東にかけて多雨偏差。華中から日本付近にかけて少雨偏差、梅雨前線帯の北上バイアスと弱化バイアスに留意。

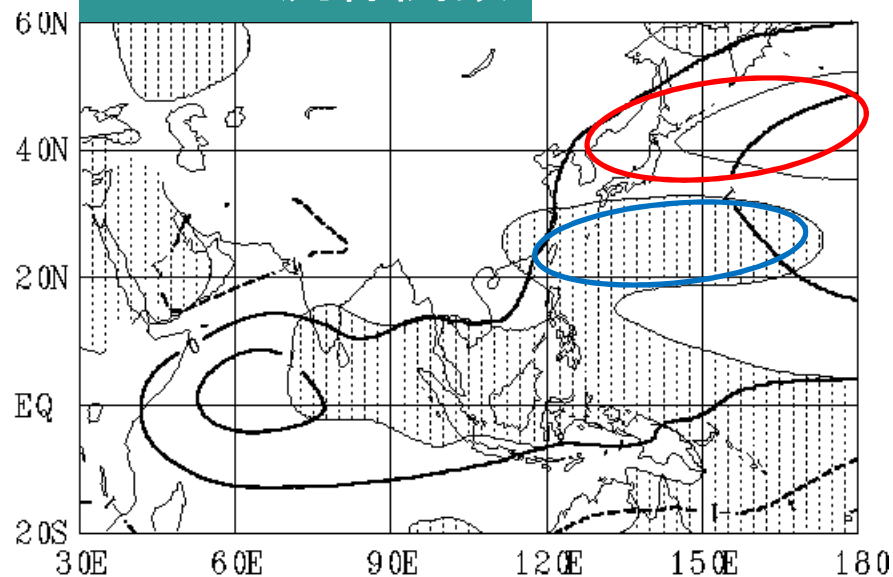
予報資料の解釈 3～4週目(7/5～7/18)

200hPa流線関数



日本付近は、北日本を境に、北側は帯状の高気圧性循環偏差、南側は帯状の低気圧性循環偏差に覆われる。チベット高気圧が平年に比べ北に偏って強いことを示唆する。対応して、亜熱帯ジェット気流はアジアから日本の東海上にかけて北偏して流れる。

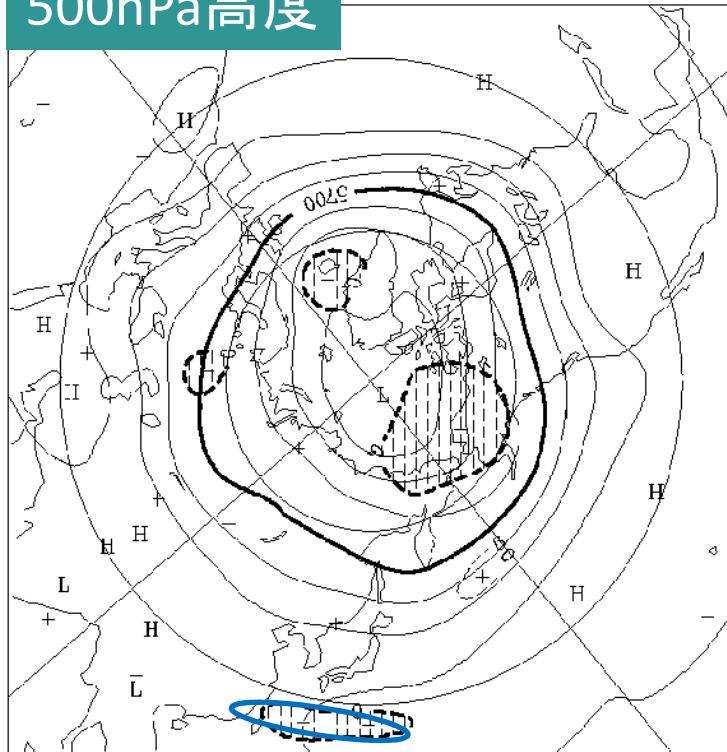
850hPa流線関数



台湾付近から日本のはるか南東にかけて低圧性循環偏差。朝鮮半島付近から、日本の東海上にかけて高気圧性循環偏差。

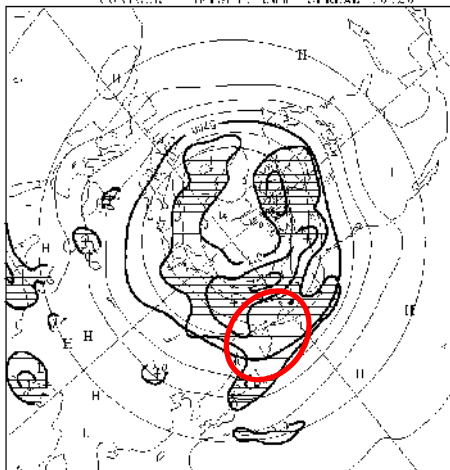
予報資料の解釈 3～4週目(7/5～7/18)

500hPa高度



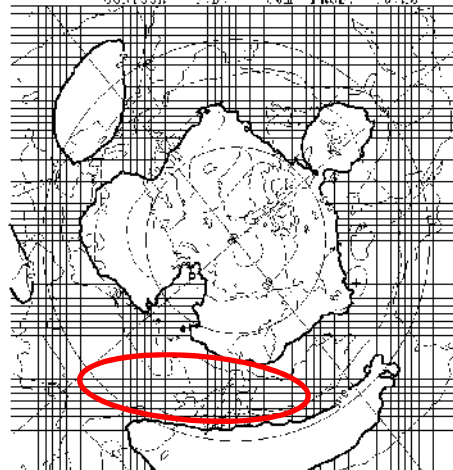
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20



PROB. OF 1. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25



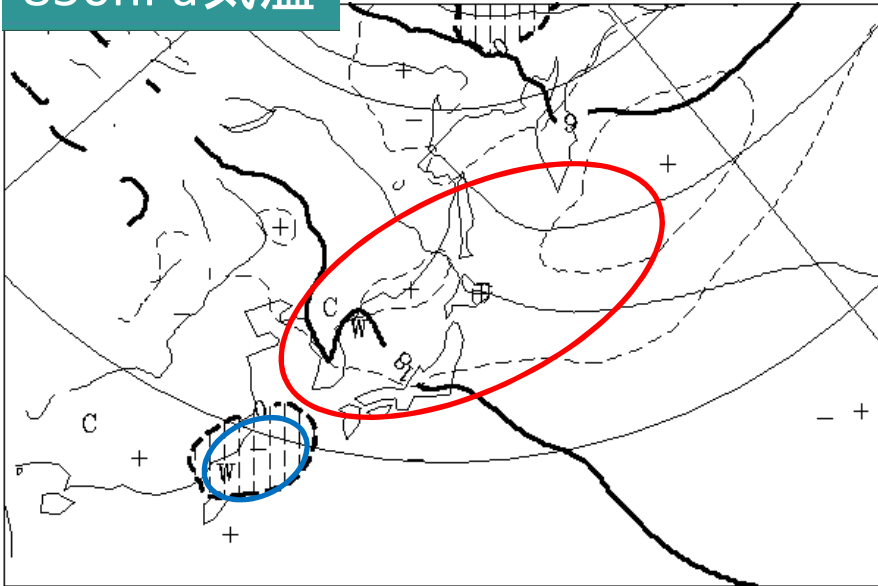
ほぼ北半球全域で正偏差。日本の南に負偏差域がある。

北・東・西日本は、東西帯状に伸びる正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

日本の北側でスプレッドが大きく、寒帯前線ジェット気流に沿ったロスビー波東伝播に不確か性が大きいとみられる。

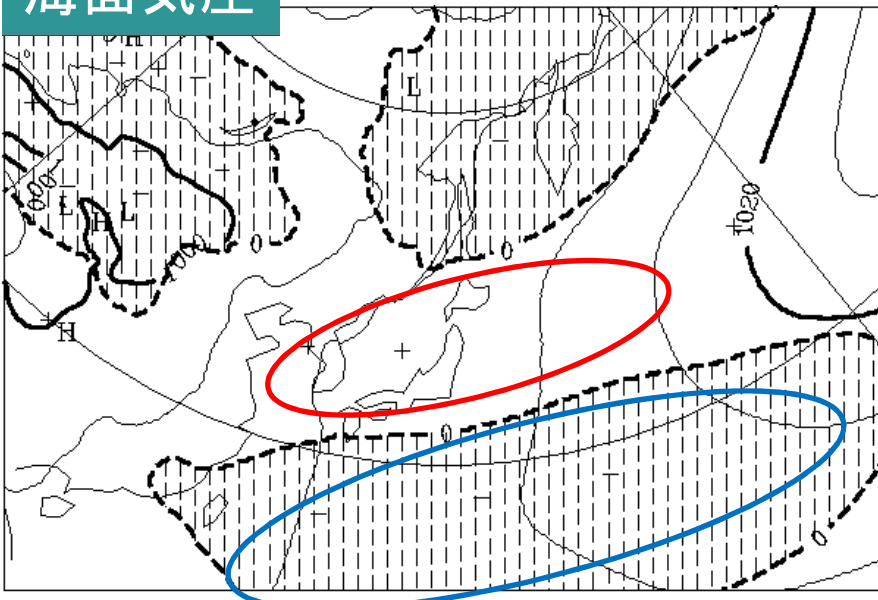
予報資料の解釈 3～4週目(7/5～7/18)

850hPa気温



北・東・西日本は、北日本中心に正偏差。沖縄・奄美は弱い負偏差。

海面気圧



日本付近は太平洋高気圧に覆われる予測となっている。ただし、太平洋高気圧の北への張り出しを強め、梅雨前線帯の位置を北に偏らせ、温度や相当温位の南北の傾きを弱く予測するモデルのバイアスに留意。また、日本の南は負偏差で、沖縄・奄美では湿った空気や熱帯擾乱の影響を受ける可能性がややある。

想定される天候

- ・ 北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

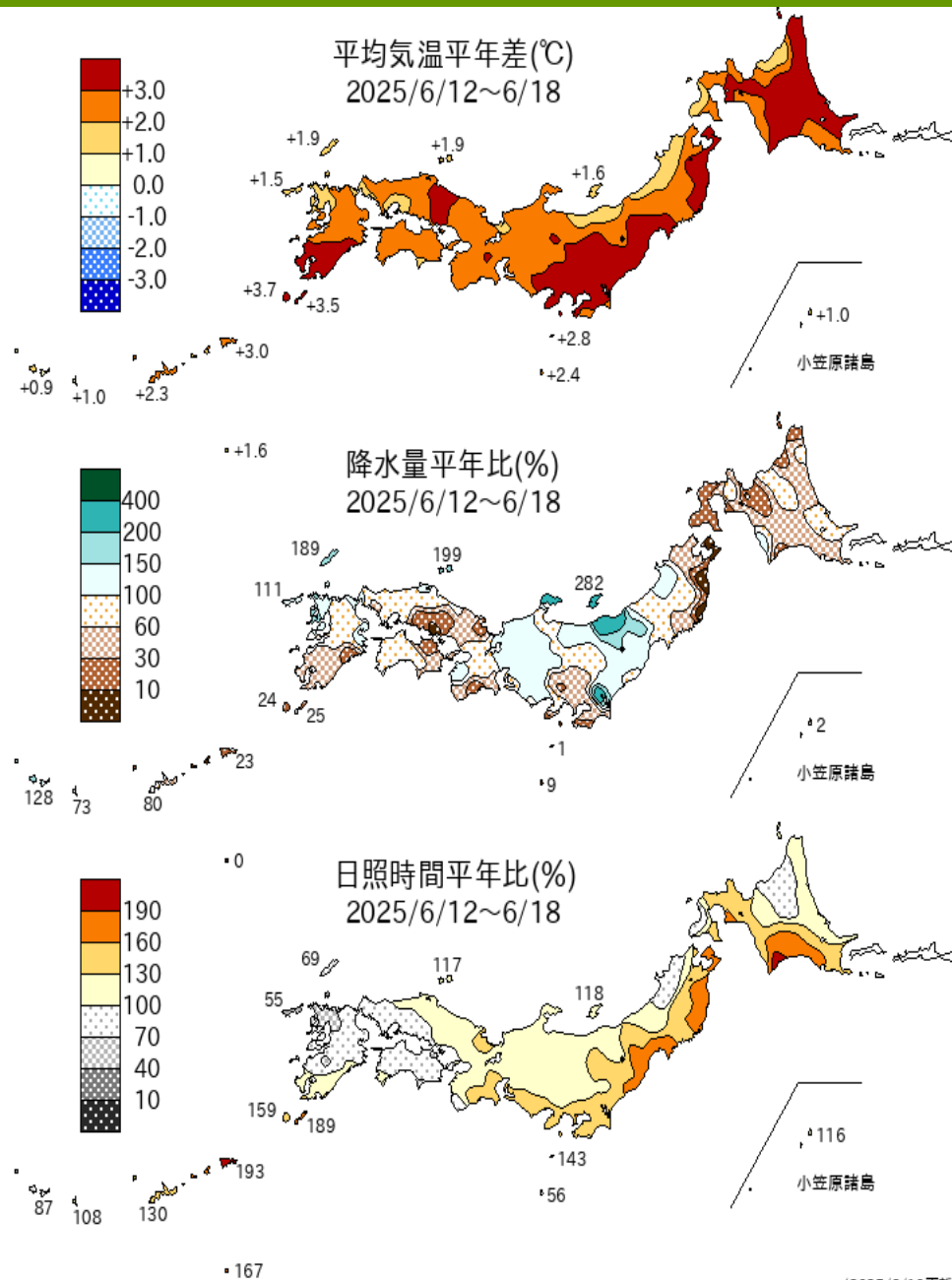
<気温>

暖かい空気に覆われやすいため、北・東・西日本で高温。沖縄・奄美はほぼ平年並。

<天候>

北・東・西日本では、太平洋高気圧に覆われやすいため、多照傾向。
沖縄・奄美では平年と同様。

最近1週間の天候経過



最近1週間(6月12日~6月18日)は、北・東・西日本では、期間の中頃までは梅雨前線や低気圧の影響を受けて曇りや雨の日が多くなりましたが、その後は太平洋高気圧に覆われて晴れた日が多くなりました。沖縄・奄美では、期間を通して太平洋高気圧に覆われやすかったため、晴れの日が多くなりました。降水量は東日本日本海側を除き、平年を下回った所が多くなりました。日照時間は、西日本を除き、平年を上回った所が多くなりました。気温は、暖かい空気に覆われたため、全国的に平年を上回りました。特に、期間後半は顕著に高く、16日から18日にかけては、日最高気温が35℃以上の猛暑日となった地点もありました。